2021 年 5 月 10 日

沖縄県庁　環境部　松田　了　部長殿

[redacted]

私共海牛類専門家グループは、ジュゴンとマナティーの保護に関して科学的な助言をすることを任務として、国際自然保護連合（IUCN）のもとに置かれた組織であります。このたび、沖縄のジュゴンが絶滅したとする原氏らによる論文が科学雑誌 *Scientific Reports* に投稿され、その事前刷りが我々の目に留まりました。この論文は現在校閲の過程にあり、現段階では出版されるか否かは未定であります。

この手紙の意図は、仮にこの論文が校閲を通過して出版されたとしても、沖縄のジュゴンが絶滅したとするその主張は全く信頼に値しないことをお知らせすることであります。2019 年 12 月に IUCN は南西諸島のジュゴン個体群を「深刻な危機 Critically Endangered」の状態にあると判定しました。その根拠は次の文献に示されています：Brownell Jr, R.L., Kasuya, T. & Marsh, H. 2019. *Dugong dugon (Nansei subpopulation). The IUCN Red List of Threatened Species* 2019: e.T157011948A157011982. http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-3.RLTS.T157011948A157011982.en

この南西諸島の個体群が絶滅したと断定するには、IUCN はその現状を正式に再解析する必要があります。

IUCN の海牛類専門家グループは、2019 年 9 月 24－26 日に鳥羽市で専門家会議をもち、日本のジュゴン個体群の調査計画（本状に添付）を作成しました。この調査計画は米軍基地の建設に伴う諸問題とは無関係であります。この調査計画は、日本の水域にジュゴンが生存しているか否かを判断するために多方面にわたる調査を提案していますが、それは日本のジュゴンは極めて低レベルにあるため、どのような方法をとるにせよ、単一手法では不十分と考えたためです。南西諸島のジュゴンの現状を IUCN が公式に再検討するためには、これらの諸調査がおこなわれてその結果が得られることが必要であります。

上の海牛類専門会議が提案した諸計画のいくつかは実施されたことを我々は理解しております。

非公式な情報によれば、環境省、沖縄県、自然公園財団はジュゴンの視認、食み痕等の情報収集を行ない、幾つかの遠隔の島々において 2020－2021 年の時点におけるジュゴンの生存をうかがわせる情報を得たと聞いております。これは良い情報です。なお、オーストラリアでの調査によれば、ジュゴンは時には数日のうちに500km を超える移動をすることがあります。この事実は、IUCN が日本のジュゴンの現状を再評価するにあたっては、南西諸島の全域の調査を行なうことが重要であることを示しています。

貴部局におかれましては、上述の調査計画を完全な形でかつ緊急に遂行なさり、それによって IUCN による日本水域のジュゴンの現状を公式に評価するのに必要なデータを提供してくださることを切望します。

本件に関して疑問の点があれば、何なりと小生までお問い合わせください。

Helene Marsh

Helene Marsh
IUCN 専門家グループ共同議長